

東博史大使からのメッセージ（大使館便り165号より）

初冬の候、朝夕はめっきり冷え込む今日この頃、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

今月号では、「グテーレス次期国連事務総長と日本の関係」、「ポルトガルとの交流や「南蛮文化」を活用した「地方創生」の動き」を御紹介したく存じます。

（1）グテーレス次期国連事務総長と日本との関係

先月号の大使館便りでもお知らせしましたとおり、10月13日、国連総会は、ポルトガルの元首相(前国連難民高等弁務官)のグテーレス氏を次期国連事務総長に任命する決議を満場一致で採択しました(任期は2017年1月1日から2021年12月31日の5年間)。

この任命に対し、安倍総理、岸田外務大臣から祝意の表明があったほか、「ポルトガル首相、国連難民高等弁務官を歴任してきたグテーレス氏は、能力、経験ともに国連事務総長にふさわしい優れた人物であり、また、ポルトガル首相として日・ポルトガル関係強化に尽力したほか、国連難民高等弁務官在任中の10年間もほぼ毎年訪日する等我が国と緊密な協力関係を築いてきた。我が国は、安保理理事国として次期国連事務総長選出プロセスに関与する中で、国連の在り方について同氏との間で有意義な議論を重ねてきた。国連は、国際の平和・安全の維持、開発、人権、気候変動、軍縮・核不拡散、テロ等の分野で重要な役割を担っており、我が国として、これら地球規模問題の解決に積極的に貢献し、安保理改革をはじめとする国連改革を進めるうえで、新事務総長と緊密に協力していきたい」等、同任命を歓迎する旨の外務大臣談話が発表されました。

上記談話にもある通り、グテーレス氏と日本との関わりは深く、私も本年、グテーレス氏にお会いする機会があり、その際、同氏は、「自分がポルトガルの首相時代に天皇皇后両陛下がポルトガルを訪問された、国連難民高等弁務官時代（2005年－2015年）にはほぼ毎年訪日し、訪日回数は14回以上にのぼるが、その間、皇太子・同妃両殿下にお目にかかる機会を得た。国連難民高等弁務官時代に、安倍総理はじめ日本政府から得た支援に感謝している、日本が人間の安全保障の概念の下に国連を重視している姿勢を高く評価している、特に開発分野で、TICADを通じて重要なアフリカ支援を行っており、日本の開発支援は真に被援助国の開発及び人材育成のためになる支援であると評価している。個人的にも自家用車が日本車で10年間一度も故障がなく、日本製品の品質の良さを肌で感じている。また、訪日して無人のロボット工場を視察したことがあり、日本の最先端のテクノロジーに驚いた」など仰っていました。

このように、大変な親日家で、日本の国連外交、開発支援に対する深い理解と信頼を寄せているグテーレス氏が次期国連事務総長に選出されたことは、日本外交にとって歓迎すべきことです。また、今回の選出に当たっては、ポルトガルのソウザ大統領、コスタ首相、サントス・シルヴァ外務大臣のみならず、現在は野党党首であるコエリョ前首相も、グテーレス氏に対する全幅の支持を表明し、今次選出は、「ポルトガルの国を挙げての支持」の成果であり、一貫して同氏を支持してきた我が国との二国間関係強化にも資するものであると確信しております。

（2）姉妹都市交流や南蛮文化を活用しての地方創生の動き

私は、10月に休暇で一時帰国しました際、10月19日から21日まで、熊本県の熊本市、人吉市、天草市を訪問しました。この訪問の経緯・背景と、ポルトガルとの姉妹都市交流や南蛮文化を活用しての地方創生の動きを御紹介したく存じます。

（ア）人吉市訪問

ア 人吉市は、アブランテシュ市の姉妹都市です。

アブランテシュ市は首都リスボンから北東の内陸に位置する人口4万人弱の都市。農業・牧畜が盛んで、日本の三菱ふそうトラックのヨーロッパ工場、ルノーの自動車部品工場、水力発電所、石炭火力発電所等があり、この発電所は、3年前から丸紅がオペレーシ

ョンに参画しています。

人吉市とは2009年に当時の田中人吉市長がアブランテシュ市を訪問して姉妹都市提携を締結しました。その後、2010年、12年に人吉市から中高生が訪問してホームステイし、2012年にはマリア・アルブケルク市長が人吉市制施行70周年記念式典に出席する等の交流を行っています。

イ 本年6月14日、アブランテシュ市において、市政100周年を記念して「アブランテシュ市への貢献のあった100の団体・個人」に表彰の伝達式が挙行されました。

この際、人吉市も表彰の対象となり、アブランテシュ市の求めに応じて同式典に出席した私が、人吉市の松岡隼人市長に代わって、ソウザ大統領から特産品のコルクを使った記念品を受け取りました。

ウ 私は、この記念品を伝達するため、10月20日、人吉市の松岡市長を表敬しました。

その際、この記念品を伝達し、これまでの両市間の姉妹都市交流を振り返るとともに、アブランテシュ市のマリア市長が2013年秋に訪日し、地元産品のワイン、オリーブオイル、チーズ、ハニー等を日本で積極的にPRする等販売努力を開始しており、これまでの人的交流に加え、姉妹都市交流を観光振興、産業・経済連携に活用いただき、引いては、地方創生につなげて頂きたい旨要望しておきました。

エ また、人吉商工会議所の関係者と「地域創生と国際交流」をテーマに意見交換を行いました。この意見交換会では、私から、1543年の鉄砲伝来以降の日・ポ二国間の歴史的な友好関係、2014年5月の安倍総理のポルトガル訪問、2015年3月のポルトガル首相の訪日によって二国間関係が、政治、経済、文化等あらゆる分野で拡大・進化していること、加えて、2014年7月に日本が、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)にオブザーバー加盟したことによって、日・ポ関係が、単なる二国間関係に留まらず、CPLP加盟国において日本企業とポルトガル企業が協働して、特にアンゴラ、モザンビーク等アフリカ諸国に進出する道が開かれている旨説明しました。

また、アブランテシュ市には、三菱ふそうの工場がトラックを製造、丸紅が火力発電所を運営している他、マリア市長が、訪日して、地元産品のプロモーションを行う等経済関係の拡大に熱心であり、これまでの人的交流に加え、姉妹都市交流を産業・経済連携に活用いただき、引いては、地方創生につなげて頂きたいなどと要望しておきました。

これに対し、人吉商工会議所の岩下会頭はじめ出席者から、「人吉球磨の主要産業は、農林業と観光、繊維産業であり、ルネサス・エレクトロニクスの子会社やホンダ技研の関連企業、立石電機等も進出、世界基準のドレスシャツを製造している「HITOYOSHI」という会社もあり、イタリア、アメリカ、アジア、中国、台湾にも輸出している。

農業では、なし、くり、メロン等の果物やプチトマト、茶葉の品質が高い。米も美味で、良質の水が豊富であり、球磨焼酎は、良質で種類も豊富である。

観光にも力を入れており、市内には人吉温泉がある他、1200年の歴史を誇る国宝青井阿蘇神社、人吉城址等の史跡、球磨川はじめ水が豊富で自然が豊かである。また、ポルトガルとの関係では、『ウンスンカルタ』がある。このカルタは、江戸時代中期に日本で生まれたが、そのルーツは、大航海時代の16世紀、日本にやってきたポルトガルの船員たちが遊んでいたいわゆる『南蛮カルタ』をもとに、日本人が『天正カルタ』をつくり、江戸中期にこれを更に改めた「ウンスンカルタ」がつくられた。このカルタは、寛政の改革で禁止され、衰退したが、なぜか人吉球磨地方にだけこの遊びが残り昭和のはじめまで盛んにおこなわれていた。その後再びこの遊びが廃れたため、熊本県が、この遊びを無形民俗文化財に指定し、平成16年10月に日本・ポルトガル友好親善を掲げて日本初の「ウンスンカルタ大会」を開催。『ウンスンカルタ』を通じて地域のコミュニティ、まちづくりや観光にもつなげるべく、鍛冶屋町街並み保存会の方々が中心になって、毎年10月に「ウンスンカルタ大会」を開催しておられ、最近では、ポルトガルをはじめ外国の観光客にも参加いただけるよう取り組んでいる」などのお話を伺いました。

これに対し、私から、ポルトガルでも和食ブームが起きており、和食関連の食材の需要増が期待されるので、アブランテシュ市との姉妹都市交流の一環として人的交流を進め、観光交流を進めるとともに、両市の地元産品の交流、特に、人吉の産品のアピールを通し

て姉妹都市交流を産業・経済連携に繋げて行かれることを支援していきたい」等指摘しておきました。

この他、私は、人吉新聞社の単独インタビューを受けたほか、人吉城歴史館、鍛冶屋町を視察するとともに、シャツを製造している「HITOYOSHI」の工場を訪問しました。なお、同インタビューは、11月5日付け「人吉新聞」の一面トップに「土曜インタビュー100周年迎えた姉妹都市 東特命全権大使に聞く」のタイトルで掲載されました。

(イ) 天草市訪問

上記人吉市訪問直前の10月19日、私は、天草市を訪問しました。

天草市では、中村・天草市長を表敬したほか、天草南蛮研究会との懇談および同研究会参加企業訪問、天草商工会議所との意見交換、更には、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」候補地の視察を行いました。

天草は、1556年、ルイス・アルメイダ神父が天草に初めてキリスト教をもたらし、1591年には大神学校であるコレジオが天草に移され、天正遣欧少年使節団の帰国とともにもたらされた活版印刷機も天草のコレジオに据えられる等、歴史上ポルトガルとの関係は深く、「南蛮文化」が華開いた土地と言えます。

天草の人々は、この「南蛮文化」を地方創生の起爆剤とすべく活動しておられます。

この地方創生事業の一環として、京都大学経営管理大学院が、数年前から天草市と連携協定を結び、現地事業者向けに起業塾を開催。この起業塾の卒業生が中心となり、昨年11月にポルトガルから各分野の有識者15名を天草市に招聘、ビジネスマッチングやスタディーツアーを行ったとの事です。また、ポルトガルと天草の歴史的なつながりをブランディングしてビジネスに結び付けるべく、「天草南蛮文化研究会」も立ち上げました。

この事業のフォローアップとして、本年9月5日、リスボン新大学でセミナーが開催され私も参加いたしました。同セミナーには、天草から10名、京都大学から小林潔司教授はじめ6名が参加。また、昨年9月に天草に招聘されたリスボン新大学の CHAM の教授陣や昨年11月に天草を訪問したポルトガル人有識者が出席されました。

今回の私の天草訪問は、このポルトガルと天草の歴史的なつながりを地方創生にいかす試みのフォローアップとして実施しました。

また、天草は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、2018年にユネスコ・世界遺産登録を目指しています。この世界遺産登録がなされれば観光客の増加や地元製品の販売促進ひいては地方創生にもつながることは間違いありません。

この観点で私は、ユネスコ世界遺産登録をめざす「崎津集落」やポルトガルとかかわりの深い天草コレジオ館、キリシタン館や地元企業を訪問しました。

特に、中村五木・天草市長を表敬した際には、ユネスコ世界遺産登録を含め、ポルトガルと天草の歴史的なつながりをビジネスに結び付け地方創生につなげる試みについて意見交換しました。また、1990年に発足し、93年には、ファドの女王アマリア・ロドリゲス天草公演を実現した、天草・日本ポルトガル協会の活動の再活性化や過去に姉妹都市提携を目指していたマデイラ島(自治州)のフンシャル市との提携(または、エボラ等フンシャル市以外のポルトガルの都市との提携)についても意見交換し、今後のポルトガルとの交流の中でさらに検討していくこととなりました。同席された錦戸天草・日本ポルトガル協会会長、亀子事務局長も同協会の活動を再活性化したいと仰っておりました。

また、天草ポルトガル協会および商工業関係者との懇談では、今後の活動として明年8月末から9月初めにリスボン新大学において欧州日本学協会主催で日本研究国際会議が開催される機会に、「天草南蛮文化研究会」を中心に何らかの交流事業の実施を検討していくこととなりました。(ウ) 熊本市長表敬

10月20日、私は、大西一史熊本市長を表敬しました。同表敬では、熊本震災に対するお見舞いを申し上げるとともに、昨年の2015年が、リスボン大震災260周年、阪神淡路大震災から20年の節目であったことから、昨年11月に「ひょうご震災記念21世紀機構」とリスボン市の共催で地震対策に関するシンポジウムを開催する等日本とポルトガルの間で地震対策を始めとする防災対策についての協力の可能性が広がっており、熊本震災の発生時や地震後の復旧・復興についての経験をポルトガルとも共有して頂くことをお願いしたところ、同市長は、熊本震災の経験、それに伴う教訓、知見は、ポルトガル

にとっても有益と考えられるので、震災対策の国際会議等がある場合には、熊本市としても協力したいとの発言がありました。

(エ) 熊本県知事表敬

10月21日、私は、蒲島郁夫熊本県知事を表敬し、熊本震災に対するお見舞い、並びに、人吉市とアブランテシュ市との姉妹都市交流や天草市の上記活動等について説明し、熊本県とポルトガルの交流を地元産業の発展や地域創生につなげていく重要性についてお話ししました。

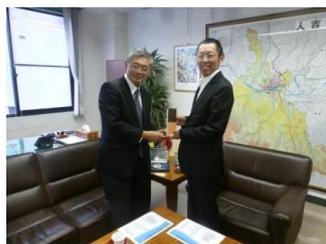
これに対し、同知事は、私の熊本県訪問を歓迎する旨、また、熊本県とポルトガルの交流を県としても支援し、地方創生に生かしていきたいと考えている旨のお言葉がありました。

なお、同表敬には、「天草南蛮文化研究会」の代表3名、地元企業の「オニザキコーポレーション」の金丸会長等が同席されました。

以上のとおり、今回の熊本県訪問を通して、姉妹都市交流、ポルトガルとの歴史的な関係や「南蛮文化」を活用し、それをブランディングしてビジネスに結び付け地方創生につなげる試みに大きな可能性を実感しました。

今後も、地方が主体的に取り組んでいる、海外からの観光客誘致や投資誘致、海外への物産等の輸出振興、海外展開を、日本とポルトガルの双方向で実現し、地方創生につながるの観点から各種支援を強化したいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い致します。

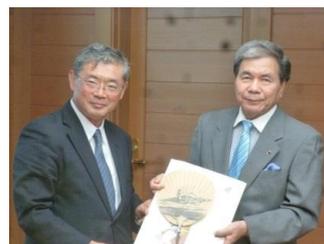
12月に入り、師走の慌ただしい時期を迎えますが、皆様におかれましては、御自愛の上、御活躍されますようお祈り申し上げます。



松岡人吉市長への記念品贈呈



中村天草市長と東大使



蒲島熊本県知事と東大使